

令和7年度版

## 教科書検討の観点からみた特色

この資料のデータは、弊社Webサイト「資料ダウンロード」からご使用いただけます。

https://www.nichibun-g.co.jp/r7js\_textbooks/c-bi/



## 1. 教育基本法及び学校教育法との関連

検討の観点	内容の特色	主な関連ページ	
教育基本法第二条	【第一号】 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	表現及び鑑賞の全活動において、美しいものや優れたものに触れ、豊かな情操と道徳心を養うことのできる題材が掲載されている。また、生徒作品・作家作品や、発想・構想の手助けとなる活動的な情景写真を取り入れ、健やかな身体を養うことにも配慮されている。	■全体
	【第二号】 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	表現活動をする上で基礎・基本となる、技法や安全指導、美術や美術館への関心を高める資料、作家のあらゆる作品や、さまざまなアートイベントを紹介する鑑賞資料を通して、幅広い知識や教養、個々の能力を伸ばし自主自立の精神を養うこと、伝統と文化を尊重すること等の態度を養うことができるように配慮されている。	【学びを支える資料】 ■美術1 p.56-74 ■2・3上 p.50-64 ■2・3下 p.48-60
	【第三号】 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	一人一人の個性を尊重し、その能力を伸ばし、創造性を培うことができるような巻頭オリエンテーションを設定。美術1巻頭オリエンテーションでは、ジオルジュ・スーラの図版と、松任谷由実さん(シンガーソングライター)の言葉を掲載し、 <b>美術との出会いの大切さを共有するページ</b> が設けられている。美術2・3上では、葛飾北斎や横山大観、片岡球子の多様な富士山の表現図版、美術2・3下ではオラファー・エリアソンの図版がそれぞれ掲載されていて、 <b>成長に応じた美術の学び</b> を共有できるページが設定されている。	【巻頭オリエンテーション】 ■美術1 p.2-4、p.5 ■2・3上 ■2・3下 p.2-4
	【第四号】 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	中学校3年間の美術の学びの取り組みを、生徒自身が見通しを持って捉えられるように配慮し、個々の個性を尊重し、 <b>自ら進んで意欲的に学習</b> に取り組めるように工夫されている。また、小・中学校の連携が意識されている。	■美術1 p.6-7「ようこそ美術の学びへ」
		各巻の巻頭オリエンテーションでは、発達の段階に応じた造形的な見方・考え方を示し、美術で何を学ぶのかが伝えられている。また、各巻の「教科書の使い方」では、授業や学習のしやすさを考えた紙面の説明が掲載されている。	【巻頭オリエンテーション】 ■美術1 ■2・3上 ■2・3下 p.2-4 【教科書の使い方】 ■美術1 ■2・3上 ■2・3下 p.8
		2年生からの美術の学びを、より実感的に深めていくため「あなたの美を見つけて」が設定されている。 <b>個々の個性を尊重し、自ら進んで意欲的に学習に取り組む</b> ことができるように工夫されている。	■2・3上 p.5-7「あなたの美を見つけて」
		シンガーソングライター・タレントの所ジョージさんをはじめ、アートディレクター・グラフィックデザイナーの吉田ユニさん、分身ロボット発明者の吉藤オリイさん等を紹介し、美術の学びが <b>これからの人生や生活に大きく関わってくる力</b> になることが示されている。	■2・3下 p.5-7「社会に生きる美術の力」
		卒業を控えた3年生に向けたメッセージが掲載されている。3年間の美術の学びで得た、幅広い知識や教養、培った豊かな情操を改めて意識させて、 <b>これからの生活にも役立てられるように</b> 配慮されている。	■2・3下 p.60「あなたへ 明日への巣立ち」
		つくることを職業としている人の活動を紹介するページが設けられ、 <b>造形や美術と職業との関連</b> が示されている。また、題材ページや特設ページにおいて、工芸品や、家庭で生徒の作品を飾っている様子、生活の中で出会う造形等が掲載され、 <b>造形や美術が生活と関連している</b> ことが示されている。	【職業との関連】 ■美術1 p.40-43/p.58-59/p.73-74 ■2・3上 p.24-29/p.32-35/p.50-51 ■2・3下 p.44-45/p.50-51/p.58-59 【生活との関連】 ■美術1 p.38-39/p.40-43/p.48-49/p.50-51/p.70-72 ■2・3上 p.16-17/p.32-35/p.36-37/p.38-39/p.40-41/p.42-43/p.44-45/p.46-47/p.52-53 ■2・3下 p.38-39/p.42-43/p.44-45
		協力して行うことで、 <b>満足感や達成感</b> を得られるような題材が設定されている。	■全体
	互いの作品や活動について話し合い、それぞれの <b>違いやよさを認め合う様子</b> が多く掲載されている。	■全体	
	主体的に <b>社会に参画する態度</b> を養うことができるように、掲載作品や題材設定が配慮されている。	■美術1 p.73-74「美術館へ行こう」 ■2・3上 p.40-41「ひと目で伝わるみんなのデザイン」/p.42-43「その1枚が心を動かす」/p.46-47「使う人の立場で考える」/p.48-49「デザインの力でできること」 ■2・3下 p.34-35「どこまで修復すべきか」/p.46-47「住み続けられる町づくり」	
	自然や環境を意識した題材を設定し、 <b>自然や環境の大切さ、生命への尊重</b> について深く考えられるように工夫されている。	■美術1 p.20-21「材料に命を吹き込む」/p.48-49「暮らしの中の木の工芸」/p.52-53「自然の美しさから生まれた」 ■2・3上 p.18-19「しぐさで語る動物たち」 ■2・3下 p.24-29「あの日を忘れない」/p.46-47「住み続けられる町づくり」/p.38-39「自分を表現する色」	

検討の観点	内容の特色	主な関連ページ	
教育基本法第二条	【第五号】 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。	日本の <b>伝統文化</b> に関わる題材や、 <b>伝統工芸、美術作品</b> 等が掲載され、実際に表現したり鑑賞したりすることで、そのよさを深く理解できるように工夫されている。また、地域に関わる作品をつくる事例等を掲載し、 <b>地域文化や郷土の</b> ことを考えながら活動することができるように工夫されている。	【題材】 ■美術1 p.24-29/p.30-31/p.34-35/p.44-45/p.48-49/p.50-51/p.54-55 ■2・3上 p.22-23/p.24-29/p.30-31/p.32-35 ■2・3下 p.32-33/p.34-35/p.38-39 【学びを支える資料】 ■美術1 p.56-57/p.66-67 ■2・3上 p.52-53/p.58-61/p.62 ■2・3下 p.48-49/p.54-55/p.56/p.57/p.58
		<b>諸外国の生徒作品</b> や作家の作品、建築物等を取り上げ、それぞれの国による表現方法や風土の違い、共通点を理解し学ぶ中で、国際理解の大切さや平和の発展に寄与する態度が身に付くように工夫されている。	【諸外国の生徒の作品】 ■美術1 p.18 ■2・3下 p.12/p.18 【諸外国の作家の作品など】 全体 【国際理解や平和の発展に関する事例】 ■美術1 p.54-55 ■2・3上 p.30-31 ■2・3下 p.24-29
学校教育法	学校教育法との関連	学校教育法に示された教育の目的および目標に則し、題材の設定、作品や写真の選択、文章表現等について十分配慮されている。	■全体
		特に、学校教育法第三十条第二項に示された「 <b>基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育み、主体的に学習に取り組む態度を養うこと</b> 」について、 <b>資質・能力の三つの柱に基づく「学びの目標」を全題材に設定</b> する等重視されている。	■全体

## 2. 学習指導要領との関連

教科書検討の観点	内容の特色	主な関連ページ
社会に開かれた教育課程との関連	各巻の「 <b>教科書の使い方</b> 」では、美術科で育む資質・能力について、生徒のみならず、保護者や教科書を見る全ての人たちと共有できる工夫がされている。また、巻頭のオリエンテーションにおいて、アーティストやデザイナーを取り上げることで、美術が <b>社会や生活の中で生かされている</b> ことが示されている。	【教科書の使い方】 ■美術1 ■2・3上 ■2・3下 p.8 ■巻頭 オリエンテーション ■美術1 p.5「目次・学びの言葉」/松任谷由実 ■2・3下 p.5-7「社会に生きる美術の力」
	社会問題や、地域文化等を取り上げており、 <b>美術の学習が社会とつながっている</b> ことが示されている。	【社会との関わりを示す事例】 ■美術1 p.73-74 ■2・3上 p.40-41/p.42-43/p.46-47/p.48-49 ■2・3下 p.34-35/p.44-45
	家庭に作品を持ち帰って使ったり、地域の施設等の展示を通して、学校での学びを地域の方に伝えたりする事例や、地域の方と協働して活動する事例が多数掲載され、 <b>美術科における社会との連携が例示</b> されている。	【家庭で作品などを使う事例】 ■美術1 p.38-39/p.50-51 ■2・3上 p.36-37 ■2・3下 p.38-39/p.44-45 【地域と関わる活動の事例】 ■美術1 p.44-45 ■2・3上 p.38-39 ■2・3下 p.42-43/p.48-51
教科の目標との関連	全ての題材において、 <b>表現と鑑賞が一体的</b> に学習できるような配慮がされている。題材は、学習指導要領を基に「 <b>表現</b> 」および「 <b>鑑賞</b> 」領域のもと「 <b>絵や彫刻など</b> 」「 <b>デザインや工芸など</b> 」「 <b>鑑賞</b> 」の三つの分野に分けて示されている。表現の題材においても、 <b>鑑賞活動が一体化</b> されており、 <b>「中心となる考え方」</b> が示されている。	■全体
	全ての題材において、学習指導要領で示された目標に基づき「 <b>学びの目標</b> 」を設定し、 <b>資質・能力の三つの柱の育成</b> が実現できるように工夫されている。	■全体
	「 <b>生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力</b> 」を育成するために、ページレイアウトを工夫したり、特設ページや資料ページを設けたりして、学習を支えている。	■全体
資質・能力の三つの柱との関連	生徒が対象や事象を捉える「 <b>造形的な視点</b> 」(知識)について理解が深まるように、題材の「 <b>学びの目標</b> 」や主文、「 <b>鑑賞の入り口</b> 」において、造形的な捉え方ができる文言が工夫されている。また「 <b>内容の取扱い2(3)</b> (共通事項)のAの指導」に示された知識に関する指導事項に基づき、第1学年、第2学年および第3学年と経験を重ねていけるよう、題材が配置されている。同様に、発達の段階に応じたテーマで鑑賞できるオリエンテーションや特設ページが設けられている。	■全題材 「学びの目標」「造形的な視点」
	題材ページに「 <b>共通事項</b> 」(知識)への意識を促す「 <b>造形的な視点</b> 」を設定し、掲載作品から感じたこと、気付いたことを意識させ、活動と知識が結び付けられる工夫がされている。	■全題材 「造形的な視点」

教科書検討の観点	内容の特色	主な関連ページ	
資質能力の三つの柱との関連	知識及び技能との関連	技能の基礎を支え、生徒が自分の思いを基に活動を充実させることができるように、材料や用具の取り扱いについて「 <b>学びを支える資料</b> 」として各巻末にまとめ、写真やイラスト、 <b>題材導入QRコンテンツ</b> 「 <b>学びのはじめに</b> 」で丁寧に説明されている。	【学びを支える資料】 ■美術1 p.56-74 ■2・3上 p.50-64 ■2・3下 p.48-60
	思考力、判断力、表現力等との関連	表現題材においては、発想・構想と、鑑賞の双方で働く「 <b>中心となる考え</b> 」を明確に示し、鑑賞したことが発想し構想を練る時に生かされ、また発想し構想をしたことが鑑賞において生かされるように工夫されている。	■全題材
		題材ページでは、生徒の発想や構想の手掛かりとして、掲載作品の <b>作者の言葉を多数掲載</b> し、その思いに触れて生徒がより自分の発想・構想を広げ深めることができるように配慮されている。さらに、発想や構想の手立てとして「 <b>表現のヒント</b> 」を設置し、情景写真、アイデアスケッチやワークシート等も掲載されている。	■表現題材において「表現のヒント」
		生徒が作品や友だちの活動等に対して、よさや美しさを感じ取ったり考えたりできるように、題材ページに鑑賞活動を促すような <b>情景写真</b> が掲載されている。	■全題材
		美術1の巻末資料では、 <b>発想や構想の手立て</b> を示したページを4ページで設定している。アーティストの鈴木康広さん、田中達也さんの活動を紹介するほか、生徒の活動に対するヒントが示されている。	■美術1 p.58-59「発想・構想の手立て①」鈴木康広、田中達也」/p.60-61「発想・構想の手立て②」
学びに向かう力、人間性等との関連	学習指導要領の趣旨を踏まえ、学びに向かう力、人間性等のうち主体的に学習に取り組む態度については「 <b>学びの目標</b> 」において分かりやすい言葉で示され、生徒が <b>主体的に学ぶ</b> ことができるように工夫されている。	■全題材	
	学びに向かう力、人間性等のうち、感性や思いやり等観点別評価になじまない部分については、主文等において、活動が終わった後においても、 <b>学びを人生や社会に生かす</b> ことができるような例示がされている。	■全題材	
	各巻のオリエンテーションページでは、各学年において <b>どんなことを学ぶのか</b> 生徒に分かりやすい言葉と図版を使用して示しており、中学校美術科で育成を目指す学びに向かう力、人間性等を養えるよう配慮されている。	【オリエンテーションページ】 ■美術1 p.2-4/p.6-7 ■2・3上 p.2-4 ■2・3下 p.2-4	
	2・3下巻のオリエンテーションでは、シンガーソングライター・タレントの所ジョージさんをはじめ、アートディレクター・グラフィックデザイナーの吉田ユ二さん、分身ロボット発明者の吉藤オリさん等を紹介し、美術の学びが <b>これからの人生や生活に大きく関わってくる力</b> になることが分かりやすく示されている。また、卒業を控えた3年生に向けたメッセージを掲載。3年間の美術の学びで得た、幅広い知識や教養、培った豊かな情操を改めて意識させて、 <b>これからの生活にも役立てられる</b> ように工夫がされている。	■2・3下 p.5-7「社会に生きる美術の力」/p.60「あなたへ 明日への巣立ち」	
主体的・対話的で深い学びとの関連	主体的な学びとの関連	教科書QRコンテンツからは、学習への意欲や興味・関心が持続できる工夫がされている。「 <b>教科書の使い方</b> 」では、題材ページの見方や使い方を説明し、生徒が主体的に学習に取り組むことができるように配慮されている。	■全体 【教科書の使い方】 ■美術1 ■2・3上 ■2・3下 p.8
		題材は、多様な生徒が興味・関心を持つことができるように、さまざまな発想のきっかけから主体的に活動が取り組めるように工夫されている。	■全体
		実際の授業を撮影した情景写真が多く用いられ、生徒が親近感を持ち、写真の豊かな表情に触発されながら、活動に興味・関心を持つことができるように工夫されている。また、生徒が <b>理解しやすい題材名や主文、題材導入QRコンテンツ</b> 「 <b>学びのはじめに</b> 」、図版のサイズにめりはりをもたせた構成等によって、より興味・関心を持って活動ができるよう紙面が作成されている。	■全体
		「 <b>学びの目標</b> 」を各題材の入口部分に示すことで、生徒が <b>見通しを持って活動</b> できるように工夫がされている。	■全体
		美術1においては「鑑賞」「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」のそれぞれの領域・分野において、 <b>導入ページを設定</b> している。生徒がこれから取り組む活動内容を把握し、 <b>見通しを持って取り組める</b> ように工夫がされている。	■美術1 p.9「鑑賞との出会い」/p.10-11「絵や彫刻との出会い」/p.36-37「デザインや工芸との出会い」
	対話的な学びとの関連 (協動的な学びにも関連)	生徒が考えを伝え合ったり、友人と相談したりしながら <b>協働して造形活動を行う様子</b> が紹介され、対話を通して思考力を働かせ、学びを深めることができるように工夫がされている。	■全体
	教科書全体を通して、美術での学びを生かしている人々の言葉や、伝統工芸に携わる人の話を掲載したり、アーティストの考え方を掲載したり、また題材導入QRコンテンツ「 <b>学びのはじめに</b> 」の視聴、 <b>多様な考え方を手掛かりに考えることを促す工夫</b> がされている。	■各巻 全題材「学びのはじめに」 ■美術1 p.5「学びの言葉」/p.40-43「文字が生み出すイメージ」/p.58-59「発想・構想の手立て①」鈴木康広、田中達也」 ■2・3上 p.32-35「日本の技と心を受け継いで」 ■2・3下 p.5-7「社会に生きる美術の力」/p.34-35「どこまで修復すべきか」/p.44-45「デザインで地域を豊かに」	

教科書検討の観点	内容の特色	主な関連ページ
深い学びとの関連	生徒が <b>造形的な見方・考え方を働かせて、自ら主題を生み出せる</b> ように、題材の設定が十分に配慮されている。	■全体
	各巻のオリエンテーションでは、各学年の発達段階に応じて、 <b>造形的な見方・考え方が</b> 分かりやすい言葉で示されている。(鑑賞との出会い、絵や彫刻との出会い、デザインや工芸との出会いを含む)	【オリエンテーション】 ■美術1 p.2-11/p.36-37 ■2・3上 ■2・3下 p.2-8
	題材ページに設定された「鑑賞の入り口」「 <b>造形的な視点</b> 」は、その題材における <b>中心的な発問</b> となっていて、何を考えさせたいか、気付かせたいかが示されている。生徒の思考が深められ、主体的な学びへの入り口ともなっている。	■全題材
	「学びを支える資料」ページの下部エリアには、「 <b>もっと知りたい</b> 」を設置し調べ活動につながる検索窓とキーワードを掲載し、生徒の探究心につながる配慮がされている。	■各巻 「学びを支える資料」
(共通事項)の取り扱いについて	「 <b>学びの目標</b> 」の知識や、「 <b>造形的な視点</b> 」等教科書全体を通して取り扱われている。 (1) <b>アの形や色彩等に関する事項</b> については、生徒が自分の感じ方で形や色彩を捉え、造形的な視点を豊かにするために生きて働く知識として <b>実感を伴った理解</b> をして身に付けていけるような工夫がされている。作品の <b>原寸大の表示</b> や、特設ページ、学習を支える資料等の示し方が工夫されている。 (2) <b>イのイメージに関する事項</b> については、生徒が題材に出会いイメージを膨らませることができるように、各題材の主文が形や色彩からイメージを喚起するような文言になっている。	■全体 【実感を伴った理解の事例】 ■美術1 p.24-29 ■2・3上 p.24-29 【原寸大表示の事例】 ■美術1 p.3-4/p.56-57 ■2・3上 p.24-29 ■2・3下 p.24-29
	題材ページに <b>(共通事項)(知識)</b> への意識を促す「 <b>造形的な視点</b> 」を設定し、掲載作品から感じたこと、気付いたことを意識させ、活動と知識が結び付けられる工夫がされている。	■全題材
	題材ページでは「 <b>表現のヒント</b> 」を設置し、また紙面全体を通して、発想や構想、鑑賞等さまざまな場面で生徒がコミュニケーションを取りながら造形活動を行う様子が紹介されている。	■全題材
言語活動の充実への配慮	掲載作品の「 <b>作者の言葉</b> 」や <b>アイデアスケッチ</b> を紹介し、形や色彩・言葉で思いを伝え合う活動を促している。	■全体
	<b>題材導入QRコンテンツ</b> 「 <b>学びのはじめに</b> 」で題材に取り組む意欲や主題が生み出されることで、まわりの人と対話し気持ちを伝え合うように工夫されている。	■全題材

### 3.カリキュラム・マネジメントへの取り組み

検討の観点	内容の特色	主な関連ページ
他教科等との関連	題材ページや特設ページ、学びを支える資料において、 <b>他教科での学習を生かしたり、関連付けたりした題材や事例</b> を掲載し、教科等横断的な学習ができるように配慮されている。	【国語科】 ■美術1 p.40-43 ■2・3上 p.62 ■2・3下 p.34-35 【数学科】 ■美術1 p.38-39 ■2・3上 p.54 【理科】 ■美術1 p.52-53 【社会科】 ■美術1 p.34-35 ■2・3上 p.24-29/p.58-61 ■2・3下 p.30-31/p.32-33/p.44-45 【音楽科】 ■美術1 p.5 ※その他詳しくは、p.48-49もご参照ください。
	総合的な学習の時間や特別活動(文化祭、進路指導、修学旅行等)と美術科の活動を関連させた事例が多く掲載されている。	【総合的な学習の時間や特別活動との関連】 ■2・3上 p.36-37 ■2・3下 p.9-13/p.20-21/p.32-33/p.34-35/p.56 ※その他詳しくは、p.48-49もご参照ください。
特別の教科 道徳との関連	紙面全体を通して、安全への配慮、自分の特徴に気付きよい所を伸ばす、友人と理解し合う、父母や祖父母、先生や学校の人々を敬愛する、美しいものに感動する心を持つ、郷土の伝統文化を大切に愛する、わが国の伝統文化を大切にする、等の項目と強く関連している。	■全体
	全ての題材は、つくりだす喜びを味わうことができるように配慮され、美しいものや崇高なものを尊重する心につながるものになっている。	
	特に道徳と深く関連するページは、 <b>紙面の下部に「道徳との関連」</b> で示され分かりやすくなっている。	■「道徳との関連」掲載ページ ※その他詳しくは、p.48-49もご参照ください。
小学校教育との接続への配慮	美術1の「 <b>中学校美術の世界へようこそ</b> 」では、 <b>小学校での経験や学びで身に付けたこと</b> が中学校でも活用できることが示されている。1年生が入学後に興味を抱きやすく、小学校の経験を活用しやすい題材が、適切な時期に配列されている。	■美術1 p.6-7「中学校美術の世界へようこそ」/p.8「教科書の使い方」/裏表紙 教科書QRコンテンツ「表紙作品の動画を見よう」

検討の観点	内容の特色	主な関連ページ
キャリア教育との関連	題材ページには、デザイナーや復元絵師らのコラムを設置して、学習に関連してより深く情報が得られ、 <b>社会や職業について考えられるよう配慮</b> されている。	■美術1 p.40-43「文字が生み出すイメージ」 ■2・3下 p.34-35「どこまで修復すべきか」/p.44-45 「デザインで地域を豊かに」
	美術館への興味を促すページに美術館の学芸員からのコメントを掲載したり、掲載した作品の作家の声を聞くことで、 <b>作者の臨場感ある思いを感じ取ることができる</b> ようインタビュー動画のQRコンテンツを掲載している。	■美術1 p.73-74「美術館へ行こう」 ■2・3下 p.48-51「さまざまなアートに触れよう」から 「社会と関わる美術」
	シンガーソングライターの松任谷由実さんや、芸術家岡本太郎、シンガーソングライター・タレントの所ジョージさん等、各巻において著名人の言葉や作品を掲載することで、 <b>美術の学びがこれからの人生や生活に大きく関わってくる力になる</b> ことが分かりやすく示されている。	■美術1 p.5「学びの言葉」 ■2・3上 p.50-51「岡本太郎“芸術はみんなのもの”」 ■2・3下 p.5-7「社会に生きる美術の力」 ※その他詳しくは、p.48-49もご参照ください。

#### 4.GIGAスクール構想・ICT・デジタルへの取り組み

検討の観点	内容の特色	主な関連ページ
情報機器の利用について	タブレットコンピューターでアプリケーションを活用したり、カメラ機能を使って表現や鑑賞している様子が掲載され、 <b>情報機器の活用例</b> が示されている。また、「学びを支える資料」では、情報機器の活用例や画像のトリミング、写真の撮影方法、動画のつくり方について説明されている。	【題材】 ■美術1 p.16-17/p.18-19/p.20-21/p.38-39/ p.44-45 ■2・3上 p.12-13/p.16-17/p.18-19/p.42-43 ■2・3下 p.9-13/p.16-19/p.42-43/p.46-47 【学びを支える資料】 ■美術1 p.60-61 ■2・3上 p.64 ■2・3下 p.52-53
	情報モラルについて <b>撮影する際の注意</b> が示されている。また <b>肖像権や著作権</b> についても示されている。	【教科書の使い方】 ■美術1 ■2・3上 ■2・3下 p.8 【題材】 ■2・3下 p.42-43 【学びを支える資料】 ■美術1 p.60-61 ■2・3上 p.64 ■2・3下 p.52-53
教科書QRコンテンツについて個別最適な学びに関連	<b>全ての題材や、学びを支える資料全体</b> を通じて、適宜QRコンテンツが設定され、生徒が主体的に活用できる工夫がされている。 <b>題材導入QRコンテンツ「学びのはじめに」</b> は、全題材において学習の導入として設置。主文や「鑑賞の入り口」から示す題材の導入動画になっている。その <b>題材への興味・関心</b> を促し活動が分かりやすいよう構成している。また、先生の <b>授業準備における負担軽減</b> や、不登校等さまざまな事情を抱える生徒でも学習できるよう配慮されている。	■全題材「学びのはじめに」 ※詳しくは、p.14-15、30-31をご参照ください。
	<b>「技法を見よう」「資料を見よう」「動画を見よう」</b> 等のQRコンテンツについて、学びを支える資料ページの各所に掲載され、 <b>技能を補足したり学習を補ったりする豊富な資料</b> により、主体的に学ぶことができるよう配慮されている。	【学びを支える資料】 「技法を見よう」「資料を見よう」「動画を見よう」
	<b>「メッセージを見よう」</b> のQRコンテンツから、所ジョージさん等の著名人インタビューや、作家インタビューの映像を見ることができ、生徒自ら興味を持ち関心を広げながら学習に意欲が持てるようになっている。	■2・3下 p.5-7「社会に生きる美術の力」/ p.51「社会と関わる美術」
	<b>「みんなの作品ギャラリー」</b> のQRコンテンツから、公開されている生徒作品を見ることができ、生徒が表現したいことを見つけたり発想を広げたりする時に参考になるよう配慮されている。	■美術1 p.75 ■2・3上 p.65 ■2・3下 p.61「みんなの作品ギャラリー」
	QRコンテンツの <b>「デッサン人形アプリ」</b> では、人物表現をする時参考になる体の傾きやねじれ、関節の位置等を意識して自分で確認しながら操作できるよう工夫されている。	■2・3上 p.55「人物をつくる」
	作品を左右上下等 <b>360度</b> に回転して鑑賞したり、関係資料が <b>スライドショー</b> になっているQRコンテンツがあり、より学びが深められるよう工夫がされている。	【360度】 ■美術1 p.14-15/p.57 ■2・3上 p.12-13/ p.18-19 【スライドショー】 ■美術1 p.59/p.61-62/p.65 ■2・3上 p.5-11/p.9-11/p.42-43/p.52-53 ■2・3下 p.5-7/p.44-45/p.48-51
教科書以外にも、 <b>学習者用デジタル教科書</b> や、 <b>教師用指導書</b> 同梱の <b>指導者用デジタル教材</b> において、別途指導や学習に役立つコンテンツの準備が整えられている。	※詳しくは、p.42-47をご参照ください。	
知的財産権や肖像権への配慮	各巻の「教科書の使い方」において <b>「作品について注意しよう」</b> が示される等、作品の著作権等知的財産権についての注意や、撮影における肖像権の注意が喚起されている。	■各巻 p.8「教科書の使い方」 ■美術1 p.60-61「発想・構想の手立て②」 ■2・3下 p.42-43「動きで伝えるメッセージ」/p.52-53「動画で表現する」
プログラミング教育・STEAM教育の配慮	主に発想・構想の手立てのページにおけるアイデア出しから作品完成までのプロセスや、デザインや工芸の題材ページにおける制作のプロセス等、 <b>プログラミング的思考</b> に関連する内容が示されている。	■美術1 p.58-59「発想・構想の手立て①」/鈴木康広、田中達也/p.60-61「発想・構想の手立て②」 ■2・3上 p.42-43「その1枚が心を動かす」 ■2・3下 p.40-41「魅力を伝えるパッケージ」/p.52-53「動画で表現する」

#### 5.持続可能な社会の実現に向けた取り組み(SDGs、ESDとの関わり)

検討の観点	内容の特色	主な関連ページ
SDGs、ESDとの関連	生徒が、持続可能な社会のつくり手として、現代的な諸課題について <b>美術科との関わりを通して考えを深められるよう</b> 、環境、伝統文化・地域文化、多文化共生、国際理解、平和・人権、防災・安全に関わる題材や事例が取り上げられている。	■美術1 p.20-21「材料に命を吹き込む」 ■2・3上 p.40-41「ひと目で伝わるみんなのデザイン」/p.42-43「その1枚が心を動かす」/p.46-47「使う人の立場で考える」/p.48-49「デザインの手でできること」 ■2・3下 p.24-29「あの日を忘れない」/p.38-39「魅力を伝えるパッケージ」/p.44-45「デザインで地域を豊かに」
	形と色彩で象徴的に表現したシンボルマークのデザイン例として <b>持続可能な開発目標(SDGs)</b> を取り上げ、多文化共生について考えながら学べるように配慮されている。	■美術1 p.44-45「形や色で伝えるシンボルマーク」
	持続可能な開発目標(SDGs)と関連するページには、 <b>SDGsのゴール</b> を掲載することで、より意識して学習ができるよう配慮されている。	■美術1 p.20-21「材料に命を吹き込む」 ■2・3上 p.42-43「その1枚が心を動かす」/p.46-47「使う人の立場で考える」/p.48-49「デザインの手でできること」 ■2・3下 p.2-4「学びの探求と未来」/p.40-41「魅力を伝えるパッケージ」/p.44-45「デザインで地域を豊かに」/p.46-47「住み続けられる町づくり」/p.48-51「さまざまなアートに触れよう」
環境教育への配慮	自然材や、再利用できる材料を使用する題材を設定し、 <b>環境問題への関心</b> を高める工夫がされている。	■全体
	環境や安全について考えながら <b>未来の町</b> をつくる題材が掲載され、 <b>環境問題への関心</b> を高められるように配慮されている。	■2・3下 p.46-47「住み続けられる町づくり」
人権尊重・多様性理解の視点	家族や高齢者、地域の方、障がいのある方たち等に対して、日頃から優しい気持ちで向き合い、思いやりを持てるように、題材を通して、 <b>心豊かで、慈愛のある人間性が育まれる</b> ように配慮されている。	■美術1 p.18-19「人間っておもしろい」 ■2・3上 p.46-47「使う人の立場で考える」/ p.48-49「デザインの手でできること」
	美術科の活動を通して、身近な地域、社会とつながる活動を紹介することで、 <b>人との触れ合いや共生</b> を通して造形表現を深めていくことができるように工夫されている。	■美術1 p.44-45「形や色で伝えるシンボルマーク」/p.54-55「祭りを彩る造形」 ■2・3上 p.38-39「空間を彩る光の装飾」/p.40-41「ひと目で伝わるみんなのデザイン」 ■2・3下 p.46-47「住み続けられる町づくり」
	あらゆる立場の作家や活動を紹介し、 <b>人との触れ合いや共生</b> への意識を高める工夫がされている。	■全体
	題材や資料ページにおいて、 <b>平和や人権</b> に関わる作家作品やポスター等が取り上げられている。	■2・3上 p.42-43「その1枚が心を動かす」/p.46-47「デザインの手でできること」 ■2・3下 p.24-29「あの日を忘れない」
伝統文化・地域文化に関して	作品の掲載においては、外国の生徒や作家作品、アール・ブリュットの作品等が取り上げられ、教科書全体を通して <b>多様性を尊重しながら学ぶ</b> ことができるように工夫されている。	【諸外国の生徒の作品】 ■美術1 p.18 ■2・3下 p.12/p.18 【諸外国の作家の作品など】全体 【アール・ブリュット作品】 ■2・3下 p.48-51「さまざまなアートに触れよう」から「アール・ブリュット」
	題材や資料において、 <b>伝統工芸や伝統文化</b> に関わる作品が多く取り上げられている。 <b>地域文化</b> について考えながら活動している事例が紹介されている。また、 <b>アイヌや沖縄の文化</b> 等も取り上げ、日本の伝統文化の多様性が示されている。	【題材】 ■美術1 p.24-29/p.30-31/p.34-35/p.44-45/ p.50-51/p.54-55 ■2・3上 p.22-23/p.24-29/ p.30-31/p.32-35 ■2・3下 p.32-33/p.34-35/ p.38-39 【学びを支える資料】 ■美術1 p.56-57/p.66-67 ■2・3上 p.52-53/ p.56/p.58-61/p.62 ■2・3下 p.56-59
防災・安全に関して	教科書全てにおいて、用具の安全な使い方や、活動場所の安全を確認すること等が必要な場面において喚起するマークが設定されていて、 <b>安全に配慮する態度を養う</b> ことができるように工夫されている。	■全体
	防災研究の専門家である河田恵昭先生(関西大学特別任命教授)による全面的な校閲のもと編集されている。	■全体
	防災・安全について、非常口のピクトグラムや、震災を描いた作品と作家のメッセージが収録されたQRコンテンツ、震災からの復興を願った展示の様子等が掲載され、 <b>防災への考えを深められる</b> ように配慮されている。	■美術1 p.73-74「美術館へ行こう」 ■2・3上 p.40-41「ひと目で伝わるみんなのデザイン」 ■2・3下 p.48-51「さまざまなアートに触れよう」から「社会と関わる美術」

検討の観点	内容の特色	主な関連ページ
特別支援教育への配慮	色覚特性の有無に関わらず、全ての生徒が等しく学べるよう、コントラストや文字の背景色等、 <b>カラーユニバーサルデザインに配慮</b> して編集されている。題材の分野を示すアイコンは、誰もが見やすく見分けやすい配色によるデザインで作成されている。 また、作品図版には見開きページごとに左から順番に <b>作品番号をキャプション部分に掲載</b> して、作品名等が認識しづらい生徒へも配慮されている。	■全体
	誰にとっても読みやすいように、文字は <b>読みやすさを重視したUDフォント</b> が選ばれており、行間や文字色、背景色とのコントラスト等にも配慮されている。	■全体
	<b>特別支援教育の専門家</b> である大内進先生(星美学園短期大学日伊総合研究所・客員研究員)による、全面的な校閲のもと編集されている。	■全体
	多様な表現を認められるように、参考作品における支持体の大きさ、形、素材はさまざまなものが取り上げられている。また、障がいの有無に関わらず生徒が題材に主体的に取り組めるように、さまざまな発想のきっかけを持つ題材が設定されている。 また、一つの題材の中でいくつかの実践パターンが示され、 <b>生徒の実態に応じて</b> 材料の種類や数を絞る等実践方法を変えられるように配慮されている。 また、教科書とは別に文字の大きさを変えた <b>拡大教科書</b> を制作したり、文字の拡大や音声の読み上げ等、 <b>学習支援のための機能</b> を備えた学習者用デジタル教科書を制作したりする体制が整えられている。	■全体 ※p.42-45をご参照ください。
	<b>手で触って作品を鑑賞</b> する美術館の事例が掲載され、触覚で鑑賞する方法が提案されている。	■2・3下 p.48-51「さまざまなアートに触れよう」から「多様性と共同制作」
国際理解教育への配慮	諸外国の生徒の作品や作家の作品、建築物等を取り上げ、それぞれの国による表現方法や風土の違い、共通点を理解し学ぶ中で、国際理解の大切さや平和の発展に寄与する態度が身に付くように工夫されている。	【諸外国の生徒の作品】 ■美術1 p.18 ■2・3下 p.12/p.18 【諸外国の作家の作品など】 ■全体

## 6.構成・配列

検討の観点	内容の特色	主な関連ページ
題材の系統性への配慮	中学校 <b>3年間の生徒の発達</b> について、授業の取材や全国各地の実践報告を基に研究し、発達の段階に応じて学びが獲得でき深められるよう、 <b>系統性に配慮</b> して配列されている。 題材の分類は「表現」および「鑑賞」領域のもと、「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」の分野で構成され、それぞれの分野の中で、生徒の発達に十分配慮した材料や用具が取り扱われている。	■全体
内容の配列や学年の順序性の工夫	発達の段階に応じた学びを重視し、 <b>1年生、2年生、3年生それぞれの成長を後押しする美術の学び</b> が設定されている。 美術1では <b>新しい見方や感じ方との出会い</b> を大切に、美術の楽しさを感じられるように工夫されている。 美術2・3上では、試行錯誤を繰り返していくことで知的理解が深まり、 <b>美術の学びを実感</b> できることが重視されている。 美術2・3下では、さらに自己を掘り下げて考えていく題材が設定され、 <b>進路や将来を見据えて、自分らしい価値観が形成されることで未来へとつながる</b> ように配慮されている。	■全体
地域性や、先生への負担軽減への配慮	学校や地域の実態に合わせて活動できるように、豊富な題材と図版が掲載され、 <b>同一題材内で、短時間で活動できる題材</b> も紹介されている。また、地域の実態によって入手可能な材料が違うことに配慮し、さまざまな材料での実践が同一題材内で紹介されている。	■全体
	全題材の本文に設置したQRコンテンツ「学びのはじめに」は、 <b>題材導入用の動画</b> として、先生の <b>授業準備の負担が軽減</b> されるよう準備されている。	■全題材
	題材ページでは、題材名や目標、本文、「鑑賞の入り口」等を示した紙面構成によって、見通しを持って授業に取り組めるようになっている。また、教師用指導書でも、すぐに <b>指導案が作成しやす</b> いよう、授業準備等の負担軽減について考慮されている。	■全題材 ※p.42-45をご参照ください。
	美術科の学習が、 <b>身近な話題と結び付いている</b> ことを意識できるよう、オリンピックのモニュメントや自治体のマークが作品例として取り上げられている。また、 <b>パラリンピックの選手が使用する競技用の車いすや義足が、問題解決のデザインの作品例として掲載</b> されている。	■美術1 p.44-45「形や色で伝えるシンボルマーク」 ■2・3上 p.48-49「デザインのかでできること」
	全都道府県のさまざまな造形活動や美術館の取り組み、伝統工芸、美術作品等が掲載され、生徒が自分たちの <b>住む地域や全国の地域に関心を持ったり、活動の参考にしたり</b> できるように配慮されている。	■全体 ※p.52-55をご参照ください。

## 7.正確性及び表記・表現

検討の観点	内容の特色	主な関連ページ
カラーユニバーサルデザインへの配慮	色覚特性の有無に関わらず、全ての生徒が等しく学べるよう、コントラストや文字の背景色等、カラーユニバーサルデザインに配慮して編集されている。 題材の領域や分野を示すアイコンは、 <b>誰もが見やすく見分けやすい配色</b> によるデザインで作成されている。誰にとっても読みやすいようにUDフォントを使用し見やすさが考慮されている。	■全体
	「学びを支える資料」の色彩ページでは、日本で唯一の色彩に関する研究機関である日本色彩研究所の監修のもと編集されている。	【学びを支える資料】 ■美術1 p.70-72 ■2・3上 p.62-63 ■2・3下 p.59
文章表現は適切であるか	題材名は、発達の段階に考慮しつつ、生徒の興味・関心を引き出し、イメージを広げることができるよう工夫されている。	■全体
	本文では、発達の段階に合わせて生徒が <b>造形的な見方・考え方を意識</b> して題材に取り組むことができるように、イメージを広げやすい言葉を選び、工夫されている。	■全体
	題材ページの <b>「作者の言葉」</b> は、掲載されている作家や生徒作品の作者の思いが伝わるよう、発想・構想する時に役立つような分かりやすい表現になっている。	■全体
図版・写真等は学習内容と関連付けられているか	<b>資質・能力の三つの柱</b> に対応した <b>情景写真</b> が示されている。また <b>制作のプロセス</b> の様子が読み取れるような写真、活動途中や終末での <b>相互鑑賞・プレゼンテーションの様子</b> も掲載されている。 <b>作品図版</b> においても、生徒の発想や構想、工夫が読み取りやすいよう、一部を拡大して掲載する等、活動の際の参考になるように工夫されている。	■全体
レイアウトは斬新であるか	<b>作品が大きく掲載</b> されていることはもちろん、 <b>活動の情景</b> が多く掲載され、活動の入り口から出口まで、全ての場面が等しく学びであること示すようなレイアウトになっている。 また、 <b>大小のめりはりをつける</b> ことで紙面に動きをもたせ、生徒が興味・関心を持つことのできる構成になるように工夫されている。	■全体
つくる過程や図解は明確であるか	<b>仕組みのつくり方</b> 等は図示することで分かりやすく、生徒が主体的に活動できるように示されている。 また、 <b>材料や用具の取り扱い</b> については「学びを支える資料」にまとめられ、いつでも参照できるように工夫されている。	■美術1 p.36-37「思いが飛び出すカード」 ■各巻 「学びを支える資料」

## 8.造本

検討の観点	内容の特色	主な関連ページ
大きさ・判型への配慮	A4判正寸よりも横に2cm広い <b>A4ワイド判</b> で、作品や写真を見やすく、インパクトを持たせて掲載し、生徒の興味・関心を引き出す工夫がされている。	■全体
印刷の鮮明さ	生徒の作品、美術作品のニュアンスや材質感、色彩等の忠実な再現が図られている。 用紙は美術科の教科書として、再生紙の中で <b>最適の良質コート紙、マット紙</b> が使用されている。また、 <b>実感的理解を促して作品を鑑賞するページ</b> では、そのほかの本文用紙よりも厚手のマット紙が使用されている。さらに、通常の印刷線数の倍の精度での <b>高精細印刷</b> が施されている。	■全体 ■美術1 p.24-29「屏風、美のしかけ」 ■2・3上 p.24-29「浮世絵っておもしろい」
使いやすさへの配慮 製本の堅牢さ	製本は、通常の無線綴じよりも丈夫な見返し付きの <b>あじろ綴じ</b> で、 <b>長期の使用に耐える丈夫な造本</b> にされている。また、表紙は <b>耐水性のあるコーティング</b> を施し、水濡れ等に対しても耐久性が高くされている。使いやすさに配慮され、かつ長期の使用に耐える <b>堅牢で丈夫な造本</b> にされている。	■全体
装丁の工夫	表紙には美しい光沢と耐水性のあるコーティングが施され、丈夫で水濡れに対しても耐久性がある。表紙に掲載されている作品は、細部が見えるように拡大され、 <b>裏表紙にわたって作品を掲載</b> して鑑賞資料としても活用できる工夫がされている。	■各巻表紙・裏表紙
安全・健康への配慮	植物性インクが使用されているため、従来の印刷に比べ人体への影響が少なく、また化学物質に過敏な生徒のために表紙の表面加工が工夫され、 <b>化学物質の残存量を少なく</b> するための努力が行われている。	■全体
環境への配慮	資源保護に配慮され、表紙・本文ともに <b>再生紙</b> が使用されている。印刷においては、 <b>植物性インク</b> が使用されている。	■全体
軽量化への取り組み	生徒の体への負担をできるだけ軽減するため、 <b>現行教科書よりもさらに軽量化した再生紙</b> の中で最適の良質コート紙が使用されている。 そのため、現行教科書より各巻で約30～40g程度軽くなっている。	■全体